

主婦の環境保全活動参加要因についての分析

茨城県つくば市小野川16-2国立環境研究所社会環境システム部 青柳 みどり

1、はじめに

地球環境問題をはじめとして環境問題一般に対する関心が高まる中、市民の中でもできることから環境保全を考えて行動しようという動きが活発化している。牛乳パックのリサイクルのように主婦を中心としたリサイクル運動の中には全国組織にまで発展したものもある。本報告は、このような主婦の環境保全活動の参加要因を世帯属性の観点から分析を試みたものである。

2、調査と方法

本報告は全国5000世帯の主婦を対象としたアンケート調査結果によるものである。調査は1991年8月に調査員による留置記入依頼方式で実施され、回収率は80.5%で有効回収数は4026票であった。調査対象者は全国2人以上普通世帯を対象として層化二段無作為抽出された。本報告では主婦の環境保全活動への参加の有無についての設問を中心に対数線形モデルなどを用いて分析した。設問にお回答の内容は、ごみ問題について（牛乳パックの再生、ごみ処理やごみ資源化、リサイクル、その他）、自然保護について、水問題について、その他である。この中で一つでも参加していると回答した主婦を「参加」として取り扱った。なお、設問では、回答者（主婦）本人だけでなく、家族で参加しているものも含む。参加していると回答した全720世帯中「ごみ問題」が663世帯と92%をしめ、主婦が中心となっていると考えられるので、表題では「主婦の」とした。

3、対数線形モデルによる各類型ごとの要因分析

世帯類型ごとに主婦の環境保全活動参加の要因は異なっていると考えられるので、回答世帯について6つに分類し、分類ごと個別に対数線形モデルのパラメーターを推定した。要因としては、主婦の行動に着目するために、子供の有無、主婦の就業状況、家庭の貯蓄又は所得、主婦の学歴などの変数を中心に要因を設定した。

（1）他の世帯と比べた場合の農家世帯の特徴

農家世帯では、まず、他の世帯に比べて参加率が低い。年齢層は比較的高く、学歴は低い傾向にある。環境保全活動への参加を被説明変数とした対数線形分析を行うと、主婦の学歴と子供の有無が活動参加要因として有意に取り上げられた。特に幼稚園から高校生までの学齢期の子供のいる家庭では参加率が高い。他の世帯では、子どもの有無とともに高い所得、主婦の就業状況などが有意な変数として取り上げられたが、これらと同様の傾向にあると考えられる。農家世帯では、その6割以上が「家業に従事」、すなわち農業に従事しており、そのために主婦の就業状況が有意な変数としては取り上げられなかつたと考えられる。他の世帯に比べて参加率が低いのは、農家世帯としての特徴ではなく、農家世帯では、参加率の高い若い年齢層が比較的少ないためであると考えられる。

4、まとめと考察

学齢期の子供の有無と主婦の学歴が大きな属性要因として取り上げられた。これは、農家世帯だけの特徴ではなく、全体的な傾向である。学齢期の子供の有無が要因として取り上げられるのは、環境保全活動の参加のためには、あるネットワークが必要なためと考えられる。